

# I. 調査地の概況について

玉城 英信

西表島は北緯24度15分～25分、東経123度40分～55分に位置し、東西に長く、南北に短い斜方形をしている。面積は約284km<sup>2</sup>、沖縄県では沖縄本島に次ぐ大きな島で、気象は亜熱帯性気候に属し、年平均気温23.4℃、年平均降水量は2407mmである。

八重山群島において、大規模なマングローブ群落を形成するのは流量、地域面積の大きい河川域である。西表島では、仲間川、前良川、後良川、船浦、浦内川、与那田川、仲良川、ヒドリ川、クイラ川の上流域から河口域で発達したマングローブ群落が見られる。

調査地である船浦は西表島の北方に位置し、湾口を北に向けた船浦湾の湾奥部が海中道路によって閉鎖的な内湾干潟(干潟)を形成している。海中道路には長さ147mの船浦橋とその東西に2.9mの水門があり、そこを通じて外洋と交流がなされている。内湾干潟には陸側から東川、西田川、ヒナイ川、マーレ川、ヤシ川、イモト川、から淡水の流入があり、その上流域から河口域にはマングローブ林が発達する。海中道路の海側にも干潟(外干潟)が形成されるがマングローブ林の生育は少ない。

船浦の干潟は平均潮位約100cmかそれ以上の高さで、外干潟の大部分は平均潮位より低い。船浦橋と東西の水門の内側には砂泥の堆積したくぼ地があり、各川の水路は河口から干潟にでる部分で浅くなっている。干潟での海産植物の生育は少なく、イモト川～ヤシ川の上に海草(海産顕花植物)のコアマモ、マツバウミジグサ、ウミジグサ、ウミヒルモが散見される程度である。外干潟には離岸距離約45～235mにコアマモが単一群落を形成し、約235m以降からコアマモとマツバウミジグサの群落がみられる。マングローブ林の面積は0.41km<sup>2</sup>、干潟面積は0.66km<sup>2</sup>、外干潟面積は0.26km<sup>2</sup>である。

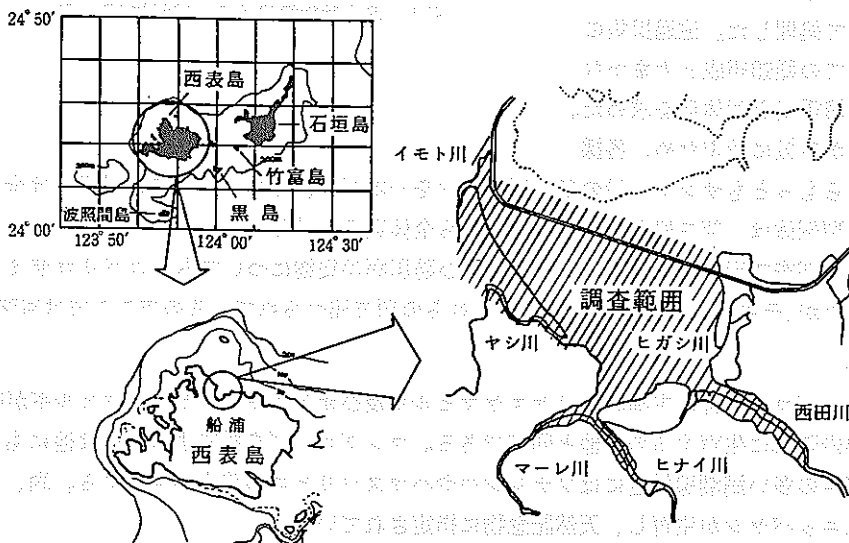


図1 西表島船浦の位置と調査範囲